

図書館友の会けやき ニュースレター 2017.1.20

REPORT 読み聞かせ交流会が支える！ —絵本の力を知る、伝え方を学ぶ、人がつながる12年の歩み—

毎秋、京都市左京図書館で開催される「読み聞かせ交流会・絵本入門講座」。今回も9月30日、10月7日、11日の連続講座に、のべ82人の参加がありました。地域の子どもと絵本をつなぐ立場の方々が学ぶ機会を、互いの交流の場を、と2005年に始めたこの交流会。今年の報告とともに12年の歩みを振り返ります。

第1回 えほんたいけん・えほんたんけん

～昔話と昔話絵本の世界～

「三びきのこぶた」を通して考える

講師 中川あゆみさん（名古屋女子大学講師） 9月30日

今年で11回目となる、中川あゆみさんの講義、「昔話と昔話絵本の世界」について、「三びきのこぶた」を通して話していただきました。

「三びきのこぶた」は、本来、イギリスの昔話で、広く知られる話だが、こぶたとおおかみの運命について異なるストーリーがあるとのこと。そこで、共通認識として、瀬田貞二訳・山田三郎画 福音館書店発行の『三びきのこぶた』を読み聞かせし、話を進められました。

まず、子どもにとって昔話はどのようなものか、次の3点を挙げ、説明されました。

- ・残酷な場面は子どもに悪影響を与えるのか。オオカミがこぶたを食べるのは、生きていくためであって、誰もが命をもらって生きている。生きていくうえで、出会う怖いもの、それを昔話として目の前の大人が語ってくれることで安心して聞いていられる。

- ・「死」についてはどうか。大人のとらえ方とは違い、子どもの「死」のとらえかたは成長とともに変化していく。虫など小動物の「死」を身近に体験するように、昔話の中で「死」に出合うことをタブー視することはなくなってきた。

- ・昔話に「教訓」は必要か。決して一つの価値観を押し付けるものではなく、人生にはこんなこともあると語られる昔話であってほしい。

続けて、「昔話」は、口承で伝えられてきた話で、特定の作者があるわけではない。時も場所も人も不特定。したがって、「昔話絵本」は、画家が解釈して描いた絵を読むことになる。そこで、「昔話絵本」を選ぶ時、文体は昔話の構造、語りの様式が守られ、絵は必要な背景・小道具以外は極力省

かれ、時代や空間の考証にも注意して読みたい、とのこと。そして今日の話が昔話絵本を選ぶ時の視点となればよい、と講義を終わられました。(田中)

アンケートから

- ・「三びきのこぶた」や「ももたろう」に私の知っている昔話とはちがうものがあることを知り、とても興味深く、子供と一緒に読んでみたいと思いました。
- ・昔話は残酷か、というのは気になるテーマだったので「りんごを食べるように子ぶたを食べる」というのがとても理解できました。
- ・絵本を読むことで、何か教訓を与える必要はない。絵本を楽しもう、ということが一番胸に響きました。
- ・読み聞かせは、読み手と聴き手がつながる時間、と改めてうかがい、自分の子どもは4年生になりますが、また母の声で読んでやりたいと思いました。

第2回 やってみよう！読み聞かせ

講師 神田千砂さん(左京図書館司書) 10月7日

左京図書館読み聞かせ交流会2日目は、はじめに神田司書から読み聞かせの基本について教えていただきました。

まず、どのような本を選んだらよいか。会場の大きさ、人数にあったサイズの絵本で、絵は遠目からもわかりやすいもの。絵に対する文章の量が多すぎず、物語の展開に沿った場面割りがされ、見開きに一場面だけ描かれているものがふさわしいとのことでした。しかし、これらの条件に合わないものでも、工夫次第で読むこともできるので、一番大切なことは、好きな本を子どもに伝えたいという気持ちだと話されました。

本の持ち方の留意点を述べられたあとは、読み方について。

話の流れを考え、間の取り方や、読む速さ、めくる速さを加減する。あまり芝居がかかったことはせず、声の強弱や読むスピードを変える程度にとどめた方がよいとのことでした。

最後に参加者から、歌の部分はどうかという質問が出ました。既存のメロディーに絵本の歌詞をのせる、オリジナルで歌うなどの方法があるが、無理に歌わなくてもよいのではとお答えいただきました。

アンケートから

- ・「伝えたい」という気持ちが大切で、そのために工夫して下さい、というお話にとっても共感しました。
- ・絵本が好き！の気持ちを大切にすることを改めて感じました。
- ・「自分の好きな本を楽しんで読む」という事が心に残りました。子ども達に読み聞かせるためだけでなく、自分でゆっくりと楽しみながら読んでみたいと思いました。

第2回 科学絵本・科学読み物ブックトーク

秋にタンポポはどうしているの？

～身近な植物の生き残り作戦～

講師 島崎真紀子さん(京都科学読み物研究会会員) 10月7日

続いて、京都科学読み物研究会の島崎さんから、タンポポに関する本のブックトークを聞きました。配布されたリストには、タンポポと身近な雑草に関する本がずらり28冊。その中から15冊ほどを紹介されました。

タンポポの「不思議」の中でも、特に外来種と在来種の違いに絞って、ブックトークを展開。実物のタンポポをルーペで観察しながら、本の絵や写真と見比べました。

登場した本は1970年代のものから2015年に刊行された

生きるコント1・2

けやきの本棚

No. 52

大宮エリー著 文藝春秋
2008年・2009年

大笑いしてちょっぴり泣ける悲喜劇エッセイ集。中でも、文章問題が読めなくて算

数嫌いになった少年のエピソードが強烈です。家庭教師・エリーさんは彼に、『大どろぼうホツツエンプロツツ』を途中まで読んであげます。続きを知りたくて頑張る少年。改めて物語の大切さに脱帽です。子どもには物語が必要！読み聞かせ、万歳！

(左京図書館・千)

第3回 小グループに分かれて絵本の読み語り実践交流

10月11日

ものまで。その間、研究が進み、タンポポに外来種と在来種の雑種が確認されたことを挙げ、複数の本を読み比べることで、抜けているところを補ったり、新しい情報に更新することができる」と説明されました。

子どもたちに科学絵本や読み物を紹介するとき、手始めには身近なテーマを選ぶとよい、また、簡単な実験や自然遊びを交えて本を開くのも効果的。また、調べ学習用の事典などは、まとめてある分、それだけでは分かりにくいこともあるので、まず、いくつかの本を読み比べたうえで、事典を読むとよりよく分かるとのことでした。

参加者から、たくさんある資料の中からどれを選べばいいのか、という質問がありました。すべての資料を読むのは大変なので「外来種と在来種の違い」などテーマを絞って、その部分だけを読み比べてみる。また読書会などで複数の人と読みあうのもいいと、アドバイスがありました。

堅いイメージの科学読み物が、とてもドラマチックに思える、1時間半のブックトークでした。

アンケートから

- ・「タンポポ」のお話は、知らなかったことが沢山あってとても興味深く聞かせて頂きました。普段、科学絵本は読み聞かせに選ぶことがほとんどないのですが、挑戦してみたいと思いました。
- ・雑種のタンポポ、びっくりしました。種が眠ることも知りませんでした。私のタンポポの知識は20年前のものでした。再度、本を読んだり、道のタンポポ、オオバコを見たりしよう！と思いました。
- ・科学読み物の情報の豊富さ、タンポポ一つとってもこれほどたくさん本があることを教えて頂きました。
- ・たんぽぽの絵本をこれから小学校の読み聞かせ会で読みたいと思います。

読み聞かせ交流会3回目は、小学校で読み聞かせの活動をしている人たちが互いに絵本を読みあう実践交流です。

まず5～6人が1グループとなって、自分が持ってきた絵本を読み、その本を選んだ理由や、読むときの工夫、疑問などを述べました。昔話からはやりの絵本まで、読み方もさまざま。どの学年の子どもたちにどんな状況で読んだかが分かると、生き生きと学校での様子がよみがえります。しっかりと読む本、子供たちも声を出せる息抜き用の本、男の子たちを引きつける狙いの本と、それぞれが活動の中でレパートリーを増やしているのが分かりました。また、戦争についての絵本の読み方や、読み始める年齢についても話題になりました。

長く活動していると、クラスの雰囲気や、学年ごとの授業の内容に合わせて選書ができるなど、細かい対応ができ、積み重ねていくメリットを感じました。また、小学校によって、読むシチュエーションは異なります。教室か図書室か、授業中か休み時間か、読み聞かせの頻度はどのくらいかなど情報交換もでき、有意義な時間となりました。

最後に3グループが集まって、それぞれのグループで読まれた本を紹介。そこで出された意見を発表して、参加者全員で共有しました。その中で、絵本を紙芝居やスライドに作り直して読む場合、著作権の問題をどのようにクリアしたらいいのかという質問が出ました。この件については改めて学習する機会を持ちたいということになりました。

(以上澤田)

アンケートから

- ・毎回、年に一度の楽しみにしています。今回もあたらしい本に出あえたり、読み聞かせにあたってのアドバイスな

シロアリ

女王様、その手がありましたか！

松浦健二著 岩波書店 2013年

著者は小学生の時にシロアリと衝撃的な出会いをし、約20年シロアリの研究を続けている。女王が分身の術を使ったり、カ

ビがシロアリの卵に化けたりとドラマが眼前で繰り広げられる。謎が解け更に謎が増え、謎は尽きない。シロアリ社会の解明を通じて、自然から学ぶとはどういうことなのか考える機会でもある。

(会員・北園)

どを聞くことができ、参考になりました。

・大人の前で読むのは緊張したけれど読み方など、皆の意見を聞いてよかった。他の人の読み方を聞いて勉強になった。ゆっくりと話ができて楽しかった。

・他校の運営状況も知ることができていいお話が聞けましたが、もっと多くの学校のことも知りたいと思いました。

左京図書館の読み聞かせ交流会—その始まりから12年

けやき 永井麻里

左京図書館の「読み聞かせ交流会」は、2005年から始まり、以後今年度で12回目と順調に回を重ねてきた。毎年年初秋に3回の連続講座として開催し、述べ100人前後の方が、熱心に講義に耳を傾ける。また実践交流では、全員が絵本を読み語り活発な意見交換を行っている。講座後のアンケートには、賞賛の感想とともに問題点の指摘や積極的な提案などもあり、参加者の講座に寄せる期待の大きさが垣間見られ、本講座の企画運営を図書館とともに担っている「図書館友の会けやき」としては身の引き締まる思いである。

この講座は、もともと左京図書館の地元左京区南部の小学校のおはなし会などで活動しているボランティアが絵本について学ぶことを目的として始まった。それ以前の左京区南部の状況は、というと、2000年より前からいくつかの小学校でPTA図書室や子ども文庫の関係者が中心となっておはなし会が開かれていたが、2000年代に入ってから、文部科学省・教育委員会の意向もあり、ほとんどの小学校でおはなし会が開かれるようになり、PTAや学校評議会などで絵本の読み語りを行うボランティアが募られた。これは国際子ども読書年であった2000年以降、京都市で

も、小学校で多数の児童を対象にボランティアが絵本の読み語りなどを行う機会が急激に増えたことと軌を一にしている。このような状況に応え、子どもたちの前で絵本を読むこととなった多くのボランティアから、「どんな絵本を、どのように読めばよいのか、ぜひ学びたい」という声が出てくるのは、もっともなことであった。

当時、京都市図書館では、京都市子ども文庫連絡会と共催する読み聞かせ講座があったが、それは全20館を年4回のペースで巡回するもの。左京図書館では地域館のトップを切って一度開催されたが、次は5年後を待つしかなかった（この読み聞かせ講座は各館一巡して終了。その後は、各館独自の企画で行われている）。また、教育委員会主催の研修講座も実施されていたが、絵本作家や児童文学者の講演、本の修理実習、学校図書室見学、学校ボランティアサークルによる人形劇等の舞台発表、等が主な内容であった。

ボランティアが切望している「なぜ子どもたちに絵本なのか—絵本の魅力と絵本が子どもたちに与える力、それをしっかりと伝える術を学ぶ」機会が、まだまだなかったので、「けやき」が左京図書館に要望し、2005年11月に第1回読み聞かせ交流会が実現した。

ところが、この第1回の1回2時間の交流会は、参加した9校のおはなし会やボランティア活動の現状報告と情報交換で終わってしまい、絵本の読み語りや絵本について学ぶ時間はほとんどなかった。

そこでさらに左京図書館に働きかけ、図書館も非常に積極的に対応してくださって、翌2006年からは、絵本の魅力や特性などを学ぶ講義、集団への読み語りについての講義と各学校の活動発表及び情報交換、少人数に分かれての読み語りの実践交流を各2時間、3日間の連続講座で実施することができた。2010年からは、各校の活動の現状につい

けやき
の
本棚

刻まれない明日

三崎亜紀著 祥伝社 2009年

ある日突然3095人がいなくなった街。

10年経っても、謎と哀しみが残るこの街

で、前向きに生きていこうとする人々にグッとくる。誰にも身近な「街」を題材にしているが、フィクションのアイデアが良いです。個人的には、時が経っていく様子の描写が好き。爽やかな読後感もオススメ。

(図書館ボランティア・長谷川)

No. 52

ての情報交換は事前アンケートのまとめを文書で報告することに変え、第2回の後半には科学読み物のブックトークを新たなプログラムとして加え、現在に至っている。

この2010年から第1回と第2回は「左京図書館絵本入門講座」として、子どもと絵本に関心を持つ方に、広く参加を呼びかけることになった。

各学校のボランティアには、図書館から学校宛の連絡便で連続講座の案内を送るのだが、当初はなかなか各ボランティアに情報が伝わらず、「けやき」のネットワークで補ったり苦心していた。そんな中、館長さんが小学校長会に自ら出向いて宣伝して下さるようになり、毎年秋の左京図書館の定例行事として、次第に定着していった。講座の報告は、参加不参加に関わらず左京区南部の全小学校に送付している。「読み語り実践交流」は、3～4部屋必要のため、ここ3年は左京図書館が入居する左京合同福祉センターの会議室に加えて図書館休館日に図書館フロアも使っている。

この読み聞かせ交流会の開始に先立って、左京図書館では、2004年9月より「けやき」主催で月1回の絵本学習会が始まっていた。参加メンバーは、当初は左京図書館のおはなし会と赤ちゃん絵本ふれあいタイムのボランティアや左京保健センターの絵本ふれあい事業のボランティアが中心であったが、読み聞かせ交流会の盛況に連れ、この講座を通して絵本学習会の存在を知った学校ボランティアの参加も増え、様々な場所で「子どもと本をつなぐ」活動をしている人たちの交流・切磋琢磨の場ともなっている。

今後も、この読み聞かせ交流会が、「子どもと本をつなぐ活動」を担う人々を支える一助となれるよう、講座の一層の充実を目指して図書館と協働していきたいと思う。

精霊の守り人

上橋菜穂子著 二木真希子絵 偕成社 1996年

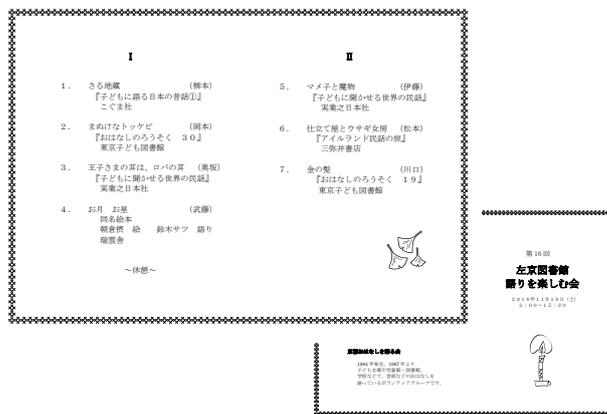
人間は精霊を見たことがない。精霊はどんなものなのか…。ぼくは気になってこの本を読み始めた。わすれられないシーン

TOPICS

左京図書館 おとなのための語りを楽しむ会

11月19日

11月19日、「京都おはなしを語る会」の皆さんによる第16回「おとなのための語りを楽しむ会」が、左京図書館階上の会議室で開かれました。総勢17名のお客様が参加され、クリスマスブッシュの赤い小花が飾られた中、東北の言葉で語られた「お月 お星」や「金の髪」などの日本や世界の昔話の世界をゆったりと楽しみました。この催しは、毎年この時期に開催されます。絵本でもない朗読でもない、語りの世界を、次回も是非ご期待下さい。(伊藤)



左京図書館 クリスマス☆スペシャルおたのしみ会

12月17日

けやきと司書さんが協力して開催、32名の参加者を迎えました。篠笛を加えてのお話「とうきちとむじな」や「きんのがちょう」「サンタクロースの五人兄弟」などいづれも楽器とともに楽しいお話会になりました。またクリスマスや演目関連の本の展示もありました。(石川)

がある。それは城の石板でなぞをとく場面で、神話と石板での話が違うところがおもしろかった。

石板によってあかされたなぞとは…。

この本を読むと精霊のイメージが変わります。

(小4・孝衛)

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ 一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきたいと思います。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日 11:00）に協力。
絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者をつなぐけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日 10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費500円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込みください。

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914 番
口座名称 図書館友の会 けやき

◎年会費はニュースレターの印刷及び郵送料の一部に充当します。

◎活動費の寄付も歓迎。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報版



講演会「図書館が広げる子どもの世界 ～京都の今そして未来～」

今年度の図書館友の会けやき・左京図書館共催の講演会は、京都ノートルダム女子大学教授で現在京都市図書館協議会会長を務めておられる岩崎れい氏を講師に迎え、子どもと図書館をめぐる京都市の現状についてお話しいたします。

日時：2017年1月28日（土）午後1時～3時

会場：左京合同福祉センター3階会議室（左京図書館階上）

講師：岩崎れい氏

（京都ノートルダム女子大学人間文化学部・人間文化研究科教授）

定員：70名 入場無料

問合せ：京都市左京図書館 ☎075-722-4032

申込み：左京図書館カウンター備付け申込用紙に記入、または右記けやきホームページからお申し込みください。

今年も開催「図書館で発表会」

図書館の資料を使って「できたこと」や「わかったこと」を左京図書館で展示発表しませんか？

作品募集中！（1月30日締切）展示期間：2月23日～3月20日

詳しくは左京図書館へ。

編集後記

新装2号めの「けやき52号」をお届けします。

1999年の創刊時から続くのが「けやきの本棚」。左京図書館の職員さん、けやき会員、そして子どもから大人まで、ご縁のある方々におすすめの本を紹介しています。限られた字数なのですが、それぞれの本への思いが伝わってくる人気コーナーです。すでに200点近くの図書が登場しました。これからはっとするような、本との出会いをお楽しみに！

さて、今号巻頭で報告した「読み聞かせ交流会」。2007年の「けやき24号」の特集でも、この交流会を始めた経緯をけやき事務局メンバーが座談会形式で紹介しています。「図書館のつどいの場としての機能を考える」という特集ですので、講演会や学習会など、図書館と市民が協同事業を行う当時の実践と意義についても語り合っています。それから10年。改めて初心に思いを馳せました。24号はけやきホームページからダウンロードできますので、ぜひご覧ください。（島崎）

◇けやき 第52号 2017年1月20日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部
題字：吉政 富美子 デザイン：伊藤 理恵子

◇発行 図書館友の会 けやき

<http://totomo-keyaki.com>